支えられて「人」、それが縁。

ごあいさつ

千鳥福祉会 理事長
山本 昌子

あけましておめでとうございます。今年は災害規模の大雪の中で新年を迎えることとなりましたが、会員の皆様におかれましても大変であったのではないかと思います。私どもも年末から年始にかけ、入所している方やホームに残っている方々のライフラインの確保に全力を尽くしました。ホームでは何日も泊り込んで利用者さんを守ってくれた職員もいます。また、持田寮の食事提供には日清のスタッフの方が施設に泊まり込んでくださるほか、雪かきなど、多くの方に助けて頂いて全員が無事に新年を迎え、5日には事業を開始することができました。感謝以外の言葉はありません。気候はもとより、世の中の変化が大きいことを痛感する日々ですが、「一人でできる事は限られている。多くの方と繋ぎ合う」「大切だと思うことをコツコツ人並み以上に続ける」ことに、気持ちを込めて揺るがず進みたいと思います。今年は、後援会と祭りがともに10歳を迎えます。長い間のご支援に感謝し、また、厚かましいとは思いますが末長くお付き合い頂きますようお願いいたします。そして、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

●後援会企業・団体会員のご紹介

主旨に賛同し、ご後援いただきますことに感謝申しあげます。

明けましておめでとうございます。

- (有)アーク工業所
- (有)クリエイティブプロダクションアドス
- (有)板垣建設
- 伊藤忠エネクスホームライフ中国(株)
- (株)神谷鉄筋
- (有)木佐設計
- 岸本建築
- 岸本農園
- (株)建築技術センター
- サクセス企画(有)
- 山陰カードビジネスマリンピア美保
- (有)親共鉄工所
- 親和設備工業(株)
- 住商アイナックス(株)中国支店
- (有)高浜印刷
- 田村電器(有)
- (有)司建設
- (株)パタカラ(本社)
- 日交整備(株)
- 日清医療食品(株)
- (株)はらぶん
- 平田生花店
- (株)福田本店
- 双葉タクシー(株)
- ボーディングやどや
- ホテル白鳥
- 松浦畳店
- 松江工業OB会
- 松江土建(株)
- (有)松江パッケージセンター
- (株)松文オフテック
- 松本商店
- 三浦工業(株)松江営業所
- 安島工業(株)
- 山中畳店
- (株)ユニコン
- (株)吉谷
- 米子ガス産業(株)
- 和幸電通(株)
- 和幸冷温(株)
- ワタキューセイモア(株)米子営業所
- 綿久リネン(株)

(アイウエオ順)
個人会員様125名

編集後記

「10年は節目、過去ではなく未来に残す」

千鳥福祉会後援会 監事
岩崎 光春
(有限会社クリエイティブプロダクションアドス 代表取締役)

新年明けましておめでとうございます。昨年末から新年にかけて、島根県東部、鳥取県は豪雪に見舞われました。米子では過去最高の89cm。新年早々の出来事で大変な年を迎えることになりましたが、皆様のところはいかがでしたでしょうか?ちなみに私の住まいは米子。駐車場の車の前にはその89cmの雪がふさいでいました。大晦日の深夜から元旦の午後7時頃まで停電。暖房は数年前に使っていた石油ストーブがみつかり、何と灯油も半分残っていました。普段ならそのようなストーブを放置しておいたことを攻められても仕方ありませんが、その時はまさに救世主。懐中電灯にラジオを聞きながらおせちをいただき新年を過ごしました。なかなか出来ない体験をさせていただきました。みなさん、備えあれば憂いなし!!です。さて、10周年を迎える私の今年は、順調な滑り出しとはいきませんでしたが、後援会の10周年はまさに節目の年。それはサマーフェスタも同じだと思います。一般的には10周年だから何か大きなことをしなければと考えがちですが、10年を迎えることができたことをベースにして、その証しを未来に残し伝えていくことが重要だと思います。お金をかけて有名なアーティストを呼ぶことも一つの方法ですが、利用者の皆様、関わった人たちの絆を明確に残すことが大切だと思います。10年を迎える足跡は大きな内容が含まれていると思います。千鳥福祉会としての足跡、利用者のみなさんの足跡。今年1年で、その足跡をまとめて未来に残すことを提案したいと思います。すべての人が共有できる千鳥福祉会が実現できたら素敵ですね。

Support News
後援会便り
2011.1/27.NO.19

社会福祉法人千鳥福祉会
〒690-0814 松江市東持田町1415
TEL0852-24-8820 FAX0852-24-8825
URL http://www.9.ocn.ne.jp/~chidori/
E-mail chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp

10年の実績、それは支え合いの力。

写真提供/多久和 宏朋氏

後援会10周年を迎えて。

千鳥福祉会後援会 会長
稲塚 公郎
(松江土建株式会社相談役)

明けましておめでとうございます。後援会の皆様には、平成23年新春を、お元気でお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は、何かと後援会の活動にご協力を戴き、厚く御礼を申し上げます。今年は卯年であります。跳躍力の強い兎にあやかり、後援会も勢いよく飛び上がる事ができ、良い話題が多い年となりますよう心から願っています。さて早いもので今年は、後援会が現在のような組織として改編されて以来、10年を迎えています。社会福祉法人千鳥福祉会が設立された当初から、後援会の必要性が確認され、後援会が存在したようですが、現在のような形で規約を創り、積極的な活動を初めてから10年になります。どのような団体や組織でも、設立された後、それを軌道に乗せるまでには、相当な苦労が伴うのは当然であります。社会福祉法人「千鳥福祉会」も、山本理事長をはじめ役職員の方々が、「ホスピタリティの連鎖」という福祉の文化を求めて、苦労を重ねられた結果、現在の体制に発展してきました。後援会はその下で、少しぐらいはお役に立ちたい、と考える人たちの理解と善意が集積され、今日の姿がある訳であります。それが十年も続いてきたことは、とても素晴らしい事であると存じます。関係してこられた皆様のご努力や、その間に賜りました全ての皆様方のご支援に、心から感謝を申し上げたいと存じます。ところで我が国で、最初に知的障害者の福祉施設が設立されたのは東京都国立市に所在する、石井亮一氏により1881年に創立された「滝乃川学園」であるそうです。経営の危機から、存続が危ぶまれた時期もあったようです。しかし戦時中の困難を乗り切り、戦後は法の施行により、社会福祉法人に移行し現在に至っています。創立当初に後援者的な存在として、渋沢栄一氏が理事長に就任しています。渋沢栄一氏といえばご承知の通り、幕末の幕臣として活躍し、明治から大正初期まで、大蔵官僚、実業家、多くの大企業の設立などで活躍した有名な人物です。 かかる大物経済人が、民主主義もまだ普及せず、封建社会の思想が強く残る近代日本の黎明期に、「福祉の増進」をよく理解し、博愛の精神でもって、率先して行動を興したことに深く感銘を受けました。そして130年前のその意思が、脈々と今日に続いている訳であります。継続は力なりと申しますが、たしかに続けることにより、人権が尊重され、人々に安らぎを与え、社会を明るくする力となってきました。先人の苦労には得るところが多いものです。私達も良き手本としなければならないと、年頭に当たり強く感じたところであります。どうかこれからも千鳥福祉会後援会に、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2万2千人以上の皆様に支えられて来た、偉業・・・

「縁」

千鳥福祉会後援会　副会長
長嶺　幸恵

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。本年は、千鳥福祉会後援会発足10周年まことにおめでとうございます。10年の節目に、副会長という役で微力ながら参加させて頂けることを、誇りに思うと同時に感謝しています。私が、この後援会に縁を頂いたのは、当事業部部長宮廻様からのお誘いでした。当時やっていたママさんバレーの監督をして頂いたことがきっかけとなり、それから長く楽しいお付き合いをさせて頂いております。あっという間の10年間「袖振り合うも他生の縁」といいますが、いろいろな方と知り合いになり、私の人生の宝の一つとなりました。ある新聞にあったのですが、昨年の世相を反映する流行語の一つに、「無縁社会」が選ばれたそうです。孤独死や結婚難、リストラ、児童虐待等こうした社会現象は、日本がかつて持っていた家族や地域社会などの結びつきを、急速に失いつつある所から生まれているとのことです。無縁社会化は、安易に「心の問題」だけではなく、雇用や家族の存り方など、社会構造の変化と深くかかわっている。けれど、確かなことは、無縁社会にも縁はあり、袖振り合うほどの縁もない人は一人もいないということ。無くなったものがあるとすれば、縁を大切に育み、強め広げていく人間の振る舞いではないだろうか。毎年恒例となったサマーフェスタは、天候にかかわらず多くの方に訪れて頂いています。これを見るにつけ地域、社会の繋がりが、年追うごとに深まっていくのを感じます。これは、みなさんがそれぞれの縁を大切にし、育み広げていかれた結果だと思いました。縁を大切にし、真心のふれあいと、誠心誠意の語らいで強い絆を結び、当後援会の多くの支援者、ファンを増やしていきたいと思います。益々のご発展を期待します。

「この10年を振り返って」

千鳥福祉会後援会　副会長
伊藤　立身
（和幸電通株式会社参与）

千鳥福祉会の皆様、そして、後援会の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も、皆々様にとりまして健やかで明るい一年と成りますよう心からお祈り申し上げます。時の流れを非常に早く感じます。千鳥福祉会後援会前会長　高場光三郎様の補佐役として、平成13年度から務めさせて頂きました。現在の稲塚公郎会長様に仕え、2代の会長様と共に、早10年目を迎える事大変慶びに思っております。その「10年の節目」ということで、主な後援会活動を振り返ってみたいと思います。平成13年度は、千鳥福祉会後援会の新役員体制が決まりました。後援会事業として、千鳥福祉会　持田寮10周年記念にあたり「食堂のテーブルセット」を贈呈させて頂きました。平成14年度から千鳥福祉会様、後援会との共催の「第1回もちだ&ういんぐサマーフェスタ」が開催されました。地元の方々を中心として沢山のお客様にお越し頂き大盛会となりました。以降20年度までは、豪快な「がいな太鼓」でオープニングを盛り上げて頂き、盛り沢山のイベント内容が充実され、賑やかなサマーフェスタと成って参りました。21、22年度には、度肝を抜かれたオープニング「ホーランエンヤ（船神事）」が大井町の皆様のおカを借りて始まり、サマーフェスタが盛大に開催されました。特に21年度は豪雨中の開催、大変印象に残りました。このように、イベントには一番懸念とされるマンネリ化という事に配慮された、山本理事長様を始め職員の皆様が、イベント内容決定に十分な時間を掛けての意見交換会の実施、回を重ねる度に面白く楽しい内容と成ってまいりました。これまでの10年間は、がむしゃらに行動された山本理事長様と職員の皆様と共に、後援会としても微力ではありますがお手伝いをさせて頂きました。そして、楽しんで頂けるサマーフェスタの開催に繋がっていったと思います。今後の10年間は、ますます苦心される状況におかれると思いますが、サマーフェスタを基軸に新しい企画も更に必要になると思います。千鳥福祉会様、保護者会様、地元自治会様、後援会の皆様との協力の下、千鳥福祉会 持田寮様の更なるご発展と活力ある地域福祉に貢献される事を後援会としてお祈り申し上げます。

「この10年を振り返って」

千鳥福祉会後援会　監事
青山　まゆみ
（株式会社ピープル　取締役）

新年明けましておめでとうございます。皆様には良い年をお迎えのことと思います。さて、後援会が今年10年の節目を迎えられるとの事。「10年一昔」とよく言いますが、自分も10歳年が増えていると思うと恐ろしくもあり、長い様であっという間ですね。施設内ではこの10年の間に喜んだり、悲しんだり、怒ったり、笑ったり、様々な生活があった事と思いますが、後援会の10年はやはり回を重ねる毎の夏祭りに表れていると思います。後援会と言っても、では一個人は具体的に何をすれば?と思う中で、この夏祭りの企画運営は各々が出来る範囲の中で積極的に関わり、色々な立場の方達とその感動や達成感を共有する。祭りのどこかの場面で関わる事も一つの後援会活動だと思っています。スタッフにならなくてもお客として舞台を観る、一緒に踊る、露店でたこ焼きを買う、迷路に入るでも、それが誰かの喜びに繋がるって素晴らしい事だと思いませんか?実際には細かな準備が沢山あって、本来の仕事の上に祭りの準備をして下さる方々のご苦労の上に成り立っている祭りです。だからこそ9年休まず続けて開催していただいたことに深く感謝いたします。振り返ればすごい雨の時もありました。普通の常識であれば?絶対に中止になるような雨でした・・・。でも楽しかった。今年もまた2月に入ると実行委員会が動き出します。節目の第10回サマーフェスタは、いつまでも語られる様な祭りにする為に、皆さんの素晴らしい知恵と人力を結集していただいて、思い出に残る夏祭りになることを願っています。千鳥福祉会のサマーフェスタがこの先20回、30回と受け継がれていきますように。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「後援会で学び私からの出来ること」

千鳥福祉会後援会　理事
佐藤　エミ子
（有限会社司建設　常務取締役）

明けましておめでとうございます。正月は何歳になっても嬉しいものです。新しい何かに出会えそうで、一年の計画を立てワクワクしますが、結局のところ世相を予感して夢も小じんまりとするこの頃です。さて、今年は千鳥福祉会後援会が組織されて十年と伺いました。先ずもっておめでとうございます。永い間福祉事業に尽力され、今日を築かれた関係者の皆様に心から敬意を感じます。私も皆様との出会いがあり、少しばかりのお手伝いをして十年になりました。おかげ様でこの間、福祉の変遷、教育、経営のご苦労等と多くの事を学びました。特に元気な健常者は、体の痛みや不自由の辛さが解らず、日頃つい自分中心の生き方をしている事に気付きました。これから一人でも多くの方がこの現実を知って関わり、思いやりの心が育つように私のまわりや子供達にも話し伝えて行こうと思っております。今後、千鳥福祉会と共に後援会がますます発展されることを心から願い新年のご挨拶と致します。

「後援会の10年を振り返る」

千鳥福祉会後援会　理事
野津　瑞江
（株式会社神谷鉄筋　常務取締役）

後援会が10年目の節目を迎えられるということで、誠におめでとうございます。10年というのは長いようで、過ぎるとあっという間だったような気がします。その間、いろいろな方々の温かいご意見や、ふれあいに接することができたことは、私個人としての成長に大きな影響があったと思います。毎日、新聞を広げると暗いニュースばかりで、社会全体に閉塞感が満ちているような気がします。最近は、せめて気持ちだけでも明るくしようと思い、努めて暗い話題を話さないようにしていますし、部屋の模様替えを考えたり、映画を観に行ったり、散歩をして四季の移り変わりを感じたり、健康の為に体を動かすようにしたりと、前向きに生活しています。思えば人は、自分の為ではなく、人の為に何かをするということが、できそうで実はできないものです。私は、残された人生、いつも明るく生きて人の役に立てることができればいいなぁと思います。これからは、急速に高齢化社会になっていきます。私もすでにその階段を一歩ずつ昇っています。千鳥福祉会におかれても、少なからずその影響が出てくるかもしれません。その中で私も少しでもお役に立つことができればと頑張る所存でございます。これからまた10年、いやそれ以上によろしくお願い致します。

「道標」

障がい者支援施設
持田寮
施設長 **江指　裕嗣**

10年前。当法人に後援会ができると聞いて頭に浮かんだのは、「?」の一文字でした。後援会が作られる目的もよく分りませんでした。会員となられる企業・団体の方とも、当時の私にはほとんど接点がなく、関係企業の対応は、上司の仕事という認識でした。社会に出る前、知的障がいがある方の支援を通して、人の暖かみのある仕事をしたいという理想を抱いていました。反対では、競争社会の荒波に身を投じる不安が強く、なんとなく企業は利益追求をしていく厳しく、冷たい所と勝手に負のイメージばかりを膨らませ、避けて通っていたというところもありました。今思うと、全く稚拙な考えです。ですので、後援会発足時の総会で、これから企業の方々との関わりが増えるのかなと、不安を隠せなかったことを覚えています。そして、後援会の方々との直接的な関わりが出てきたのが、時を同じくして始まったサマーフェスタでした。しかし、実際にみなさんの協力を得てサマーフェスタを何度か開催していく中で、ボランティアとして参加して頂いた会員のみなさんから、祭り終了後に、笑顔で「お世話になりました。」「楽しかったです。」「また、来年も。」と声をかけてもらうことが多く、こちらがお世話になった方なのにと恐縮するご言葉が何度もありました。支援してもらった方が、感謝されているのです。不思議なことです。普段、利用者の方の支援をさせてもらう仕事をしている自身が、利用者の方に感謝するということがあっただろうかと気づかされ、考えを改めさせられました。誰かのために役に立てる機会を与えてもらったことに感謝し、謙虚に人と向き合っていくという道標を与えて下さったのが、後援会のみなさんだったと、改めて節目に感じるこの頃です。

「絆」

居宅介護等事業所
千鳥福祉会ケアセンター大空
管理者
竹内　淳子

新年明けましておめでとうございます。10年ひと昔と言いますが、千鳥福祉会後援会も10年目を迎えます。会員数も年々増え、人の輪が更に広がり、大きくなって来たことは「絆」そのものなのではないでしょうか。福祉に全く無縁であった自分が、施設職員として20年目を迎えようとしているのも不思議であり、施設の歩みと共に、確実に年を重ねて来たことを実感しています。特に、後援会の皆様には、半年以上前からサマーフェスタの実行委員会でお世話になっています。施設行事の域を超えた「千鳥福祉会サマーフェスタ」を、沢山のボランティアとスタッフが協力して盛り上げ、あれ程の来場客を引き付ける祭りにしていけたのは、地域への発信力のお蔭だと思います。楽しみにして下さる地域の方や、施設を利用しておられる皆様の願いが届きますよう、これからも絆を大切にして、後援会の皆様方のお力添えをいただきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

「後援会10年を振り返って～サマーフェスタを通じて」

就労移行支援事業所
ワークセンターフレンド
管理者
松浦　和志

千鳥福祉会後援会が発足して今年で10年を迎えます。10年前の千鳥福祉会は、持田寮の入所部、通所部、近隣にグループホームが数箇所の事業運営でした。福祉は「措置制度」で、国が障がいのある方に「○○施設に入って下さい」という時代でした。私たちも、地域住民の方々や関連企業の方々から協力を得て「何か面白い、楽しい行事でもしたいね」という気持ちはあったのですが、実行出来ず法人内で和気藹々と行事を行い利用者の皆様、職員と達成感を味わっていました。そして平成13年4月千鳥福祉会後援会が実質的に発足し、会員の皆様より多大なるバックアップを頂く事となり、千鳥福祉会の「変革」が始まりました。その中のひとつが「千鳥福祉会サマーフェスタ」でした。地域の皆様、関連企業様、利用者の皆様、保護者会様、職員を中心にして企画委員会を設け地域の祭りとして確立、定着していくことを目的として全員一体となった大イベントとなりました。私自身もサマーフェスタを通じて、沢山の後援会の会員様と接する事が出来、福祉業界以外の、社会情勢、企業情報等改めて真剣に目を向けて勉強していかねばと考えるようになりました。一人でも多くの方と繋がって障がいのある方を支えることは、千鳥福祉会の永年の思いでもあります。一方、ワークセンターフレンドは、障がいのある方の就労を目指してクリーニング作業訓練、就労マナー、企業実習を主とした事業を展開しています。後援会会員様より、「障がい者雇用について」「職場実習の受け入れ」等何でも結構ですので、アドバイスを頂ければと思います。宜しくお願いします。最後になりますが、サマーフェスタも今年で10回目となります。今年も後援会の会員様の協力、パワーを頂き全員一体となってあの心地良い達成感を味わいたいと思います。間も無く「千鳥福祉会　サマーフェスタ2011」が始まろうとしています。

「グループホームの支援とは」

共同生活介護・援助事業所
管理者 **遠所　三津江**

新しい年を迎え、千鳥福祉会後援会の皆様には益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。後援会も、お蔭様で本年には発足10周年を迎えることとなりました。毎年、会員の方が増え本当に心強く感謝致しております。私は、ちょうど法人最初のグループホームが立ち上がった年からお世話になり15年になります。今では10件、入居者48名のホームとなりましたが、当初はホームに入居される方は、身辺面の自立や経済的自立、集団生活に適応できるなどが条件でした。その後、少しずつ変遷を経て、障がいが重くても、身辺自立が出来ていなくても、地域生活を望む人なら誰でも支援を受けながら少人数で共同生活が出来るという制度ができました。この制度はまだまだ未熟で、今後、財源を含む多くの検討が必要と思われます。しかし、確実に利用者の方の選択肢は広がったと思います。ホームに出ればヘルパーさんと一緒に買い物や外出を楽しむことができるようになりましたし、連休には思い切って遠い所へ旅行にも行けます。また、つい先日には、引っ越した先の地域の方から、ご近所に住まわせていただく事をとても喜んでいるという、本当に暖かいお言葉をいただき、こうして地域に徐々に溶け込めていることをとても嬉しく思いました。そして、個別の支援で思い思いの生活を望み、叶えられるという明るい未来が見えてきました。しかし、一方では、高齢化が進む入居者の方たちの寂しさ、辛さを感じ、行く末を案じながら、法人理念に掲げる、「あなただけの生き方」が見つけてあげられるのか、そして本当に叶えてあげられるのかという不安があります。「個別の支援」というのは口でいうのは易く、実際には、「私だけにかかわって欲しい、私を中心に考えて欲しい」という思いが満たされない限り本当の満足、本当の個別化にはならないと考え、日々その難しさを痛感しているこの頃です。様々な事情を抱えた障がいのある方が地域で生活するには、たくさんの方々のあたたかい見守りやご理解が必要です。これからも変わりませず、お力添えをよろしくお願い致します。

「協力者あってこそ」

多機能型事業所L.C.C.ういんぐ
地域活動支援センターL.C.C.ういんぐ
管理者
神田　弘治

当法人の福祉事業に対して、深い御理解を頂いております後援会の皆様の御協力により、こうして後援会発足10年を迎えることができた事を、法人内一職員として心よりお礼申し上げます。法人内では、「ハンディキャップのある方の支援を通して、優しい地域ができる事を信じて、多くの方と喜びを共有できるよう努力します」という使命の他、中長期目標の中に「パートナーとの関係を深めます」という目標を掲げ、地域との接点・協力者の大切さに対する意識を常にもつよう心掛けております。「障がい者福祉」は、もはやハンディキャップがある方に一定　(安心・安全な)のサービスを、限られた人(御家族、関係機関、事業所職員など)だけが支えていくものではなく、地域の方々の理解・協力を得ながら皆で支えあう「地域福祉」として進めていく必要がある為、われわれにとっては後援会の皆様のお力を借りて、地域の方々への情報の発信や交流の機会等を増やし、福祉事業に対する更なる理解や協力者を増やしていく事が命題となっております。そういった目的の一環として、先般当事業所管轄の地域活動支援センターとして「センターひまわり」が下東川津町旧国道431号線沿いにオープン致しました。このセンターの役割としては、ハンディキャップのある方が地域の中でいきいきと活動し、力を発揮できる環境をつくる事、またこのセンターが地域交流・地域貢献の場となる事を目指す中で、地域の方の理解を深め、協力者を増やす事を目標に掲げ、今後事業展開していく考えです。これから本格的にセンターの活用をしていく上で、後援会の皆様にも是非御気軽に足を運んでいただければ幸いです。これから先も後援会の皆様に応援し続けていただけるよう、誠意をもってこの福祉事業に取り組んでまいりたいと思いますので、今後とも御支援の程宜しくお願い致します。様々な事情を抱えた障がいのある方が地域で生活するには、たくさんの方々のあたたかい見守りやご理解が必要です。これからも変わりませず、お力添えをよろしくお願い致します。